

# 第50回 労働リーダーシップコース開催報告

金属労協組織総務局局長 上口 智子

2018年10月11日から27日まで、京都・関西セミナーハウスにおいて、第50回労働リーダーシップコースを開催した。北は栃木県から南は熊本県まで総勢43名の受講生が研鑽に励んだ。

## 節目の年、第50回

1969年12月2日、わずか17名の受講生から始まったこの労働リーダーシップコース（旧西日本コース）が、今回で節目となる50回を迎えた。開校当初「我が国における最初の大学と労組との組織的提携による労働



開校式で宣誓する受講生

教育講座」と報道されてから半世紀、旧西日本コースでは1735名の修了生が巣立っていった。

この間、西日本コースの基礎コース化や、西日本コースより2年前に開講した東日本コースとの東西一本化などを経て、現在の「労働リーダーシップコース」になるなど二部変化しつつも、4つの柱に基づく、全期間合宿制による全人格的教育の教育方針は、第1回から変わることなく受け継がれている。

## 10月11日(木) — 開校式

2018年10月11日(木) 10時から開校式を行った。篠笛(森田玲・玲月流初代)の奏楽で始まり、式辞として香川孝三校長(神戸大学名誉教授)、松岡敬名誉校長(同志社大学学長)が、コースの意義を述べるとともに、受講生を激励した。また主催者代表として浅沼弘一金属労

協事務局長が挨拶に立ち、「1969年に始まったこのコースも節目である50回を迎え、修了生も約1700名となった。労働リーダーシップコースは与える研修ではなく、皆さんで作っていただく研修です。自らが主体的に運営していく第50回コースにしていきたい。」と述べた。その後、来賓として厚生労働省の土田浩史政策立案総括審議官が「働き方改革、第4次産業革命など変革の真ただ中にある今、皆さんには知見を活かし、労働界のけん引役としてその役割を大いに発揮されることを期待しています」と激励された。

次に自らも第35回コースの修了生である山本一志関西ブロック代表が、続いて、石田光男副校長が挨拶に立ち受講生を激励した。最後に受講生を代表して村田製作所労働組合の渡辺華緒理さんが「時代のニーズにこ

たえられる新しい労働運動の担い手となるべく、最後まで真摯に学ぶ姿勢を持ち、お互いを励まし合いながら研鑽に励んでいくことを誓います」と力強く受講生宣誓を行った。

## コースの特徴

### — 特別プログラム

#### ①ゼミナール

ゼミナールでは「時代の求める労働組合の役割」を総合テーマに、労働組合・職場の課題を指導教授や受講生同士で解決案を探索する。5つのテーマに分かれ4回にわたり討議を重ね、最後にゼミナール毎にパワーポイントを使って発表を行い、成果を共有しあった。各ゼミナールのテーマと概要は次のとおり。

#### ◎香川ゼミ

『労働組合と国際』〜21世紀国際社会における労働組合の役割

世界の広がりの中での労働組合のあり方を追求すると共に、日本人としての国際感覚、国際理解の弱さを反省し、さらに国際社会における労働組合の使命、国際労働運動の責任と連帯について討議した。

◎石田ゼミ

『労働組合と職場』～すべての人が働き方を選べる時代へ

「すべての人が働き方を選べる時代へ」をサブテーマに、少子高齢化や長期的な経済低迷の時代背景を読み解くと共に、65歳現役社会を指した高齢者雇用の労働条件について討議した。

◎中田ゼミ

『労働組合と社会』～仕事と処遇 納得性のある給与の決め方と水準

「納得性とは」「給与とは」という切り口から、納得性のある給与の検討を進めるため、会社の人事制度と賃金制度の関連性について分析、今後の課題について討議した。

◎富田ゼミ

『労働組合と働き方』～わたしたちが考える多様な働き方の実現に向けて

働き方改革や少子高齢化・団塊世代の退職などの視点から、「生産性向上による長時間労働の削減」「60歳以降の雇用確保に向けた取り組み推進」について分析、労働組合としての

提言について討議した。

◎上田ゼミ

『労働組合と企業』～労働組合の存在感を高めるには

企業は現在、グローバル競争の激化や技術革新など大きな変化の圧力に直面している中、労働組合を取り巻く環境の変化を分析、組合員の声と課題認識を共有し、組合の具体的取組や今後の課題について討議した。

②特別講演

経営者の方をお招きして実施している特別講演「経営と人間」は、経営者ご自身の経験談、経営哲学や人生観、次世代への提言などを語っていただく場である。

今回の講師は、豊田合成株式会社取締役社長の宮崎直樹氏。宮崎社長からは「企業風土改革への取り組み」と題し、2015年から3年間かけて実践した「戦力を整える」「働き方改革」「風土改革」などについて講演を受けた。講演の中では、労使が率直に話し合える場づくりや社員とその家族や職場の仲間だけにとどまらず、協力会社とも一緒に時間を共有し、楽しめる機会をつくるなどの取り組み、会社役員自らの意識改革「役員宣言5カ条」なども紹介された。



ある日の講義風景  
労働法を学ぶ受講生



交流会  
「やった！大成功！」交流会での一場面



組合戦略づくり  
グループディスカッション後の発表の様子



特別講演会  
講演する宮崎・豊田合成(株)取締役社長



茶道体験  
先生から手ほどきを受け、お茶を点てる受講生



ゼミナールまとめ  
ゼミナールでの討議内容をゼミナールごとに発表



特別討論会の後、金属労協三役と記念撮影

### ③二つの討論会

このコースでは、ゼミナールだけではなくより多くの受講生同士が語り合えるよう、二つの討論会を行っている。一つは受講生だけで行う討論会、もう一つが金属労協三役と語り合う特別討論会である。各討論会は5つのテーマに沿って、結論を求めず、自由に討論する場となっており、テーマは、10名の受講生から選ばされた討論会委員会で決定する。受講生同士で行う討論会では、「あなたにとって労働組合の魅力とは?」「若手の離職について」「職場における女性の活躍について」「組合員、組合役員

のメンタル対策」「組合費について」という職場での課題、悩みをテーマに討論を行った。また特別討論会では、「長時間労働は正への課題と取り組み」「60歳以降のモチベーション向上について」「働き方改革への取り組み」など、働き方についてのテーマを中心に討論を行った。普段会う機会の少ない金属労協三役との討論に緊張しつつも、討論会の約2時間とその後夕食懇談会でもしっかりと意見交換を行った。受講生からは、「貴重な経験となった。」「経験者の方の話はとても新鮮だった。」「少し緊張したが、有意義な時間だった。」との感想が寄せられた。

### 台風の影響

2018年9月4日に西日本を縦断した台風21号は京都にも大きな被害をもたらし、一部プログラムを変更せざるを得なかった。毎年、鞍馬寺の歴史と鞍馬山の自然を体験する「鞍馬山散策」を行っているが、台風の影響は思った以上に大きく、鞍馬山周辺は強風により木々がなぎ倒され、とても立ち入ることができるような状態ではなかったため、今回は断念。2009年1月開催の第40回コースから雪の日も雨の日も続けてきたプログラムだったが、実行委員会での



貴船神社の本宮前で記念撮影



「水占みくじ」を水に浸す受講生

話し合いにより急遽貴船神社参拝に変更した。

貴船神社ではまず、全員で記念撮影、その後、ゼミごとに分かれて本宮や奥宮への参拝を行った。本宮参拝の後には、本宮に湧き出るご神水に浸すとお告げが浮かぶという「水占みくじ」を水に浸し、浮き出てくる文字に一喜一憂する受講生も。わずか数時間の滞在だったが、京都の

歴史と自然を満喫し、よい気分転換になったようだった。

### 10月27日(土) — 閉校式

2018年10月27日(土)朝から出発(たびだち)の集いを行い、受講生がコースを通して学んで感じたことを一人ひとりが述べ合った。その後、閉校式を行った。式辞として香川孝三校長(神戸大学名誉教授)が「このコースで築き上げた仲間との絆を大切に助け合って日本の労働運動を支えていっていただきたい。」と激励し、43名全員に修了証書を授与した。主催者代表挨拶として浅沼弘一金属労協事務局長から「このコースで学んだことを持ち帰って、是非周りに広



閉校式で答辞を述べる級長

## 実行委員会

各ゼミナールから班長、副班長を各1名互選し、計10名で実行委員会を編成する。実行委員会の中から1名級長を互選する。コースは受講生の主体的な運営を基本とし、実行委員会がその中心となる。

全体ミーティングで選出された第50回コースの実行委員会メンバーは次のとおり。

級長／濱田実仁（JFEスチール福山労組）

副級長／山本 修（パナソニックホームズ労組東部営業支部）

大谷欣也（パナソニックオートモーティブシステムズ労組池辺支部）

花田慎吾（パナソニックアプライアンス労組コンシューマーマーケティング支部）

福本次郎（日立造船労組）

委員／小畑彰彦（パナソニックデバイス労組伊勢支部）

内田弘久（シャープ労組）

渡辺華緒理（村田製作所労組）

伊藤絵梨香（パナソニックホームズ労組）

渡辺真人（本田技研労組栃木支部）



全体ミーティングで選出された実行委員

## 第50回 労働リーダーシップコースを振り返る



労働リーダーシップコース校長  
神戸大学・大阪女学院大学名誉教授  
香川 孝三（かがわ・こうぞう）

2018年10月11日から27日まで開催された労働リーダーシップコースを無事終えることができました。50年にわたって続けられてきたこのコースがどのような成果を上げてきたのか考える時期がきたように思いました。受講生は日ごろの組合活動の中で育まれてきた問題意識をもって参加されており、積極的にゼミや講義に参加されていました。普段接触することが少ない他の産別組合、企業レベルでは競争関係にある他の企業別組合からの参加者との交流を通じて、違った視点での意見に接することができ、視野を広げることができたと思われまふ。我々講師陣、特に大学にいる者にとっては、現場で生じる生の問題にふれることができ、新たな問題点のヒントを得る機会にもなっています。受講生と講師陣との議論や交わりの中から何かが生まれてくることを期待したものだと思っています。

閉校式を終えて自宅や勤務先に帰っていく受講生を見て、3週間近くのコースが、その後の受講生の人生、働き方、家族との関係や組合活動にどう活かされていくのであろうか、長い人生の一コマとして労働リーダーシップコースでの経験が生き続けて欲しいという気持ちを持っています。このような気持ちを持つのも50周年を迎えたせいでしょうか。

めていただきたい。これからそれぞれの場で活躍されることを祈念している。」と述べた。その後、ゼミナール担当講師の石田副校長（同志社大学教授）、富田運営委員（同志社大学教授）、上田運営委員（同志社大学教授）が挨拶に立ち、修了生を激励した。受講生代表としての答辞では、第50回の級長であるJFEスチール福山

労組・濱田実仁執行委員が「異なる地域、異なる産別から集まった仲間たちと講義だけでなく、連日連夜遅くまで語り合った時間は見聞を広げてくれる、何物にも代えがたい貴重な経験でした。」と14日間の思い出を語り、そして今後の決意を表明した。最後に「卒業の歌」を全員で合唱し、閉校式を終えた。

## 次回、第51回

労働リーダーシップコース（旧西日本コース）の修了生は、通算1735名、旧東日本コース（第1〜40回）の939名と合わせて、2674名となった。節目となる第50回が終了し、次回から新たなステージが始まる。第51

回コースは2019年10月17日（木）〜11月2日（土）の日程で開催する。第51回労働リーダーシップコースに集う受講生ができるだけ多くの知識を得、多くの経験をし、そして産別の枠を越えた人脈づくりができるようプログラムにも工夫を凝らしていきたい。